

# 安保で公明支持層反発

# 足元揺らぐ「平和の党」

8/26  
福井

## 来夏参院選へ影響懸念

**安保法案をめぐる  
創価学会関係者と公明党幹部の主張**

**創価大教員ら  
「有志の会」**

- 9割の憲法学者が法案を違憲と判断
- 創価学会名誉会長で創価大創立者の池田大作氏の理念から法案に反対。声を上げるべき時は今だ

**党幹部**

- 理解を促すよう努力したい。(1992年成立の)国連平和維持活動(PKO)協力法をつくったことと比べれば支持層も冷静だ (山口代表)
- たまたま創価大出身者が反対していると受け止める (井上幹事長)

安全保障関連法案の成立を目指す公明党の足元が揺らいでいる。支持母体の創価学会関係者による反対運動が顕在化しているためだ。集めた署名

名は1400人を超え、安保法案の参院審議が続く中、「平和」を看板としてきた党内からは困惑の声が漏れる。身内の思わぬ離反は、来年夏の参院選にも響きかねないと懸念を強めている。

「理解を促すよう努力したい。(1992年成立の)国連平和維持活動(PKO)協力法をつくったことと比べれば支持層も冷静だ」。公明党の山口那津男代表は25日の記者会見で、支持層から公然と安保法案反対の声が上がる現状に平静を装った。

公明党としては、自民党との連立政権から離脱する選択肢がない以上、安倍晋三首相

が進める集団的自衛権行使を含む安保法案の成立を期すしかない。だが所属議員の内心は穏やかでない。ベテラン議員は、憲法解釈変更を閣議決定した昨年7月を振り返り「支持者に十分説明して納得してもらったと思っていたのに今なぜ反対なのか」と戸惑う。

反対運動は、創価大(東京)などの教員らによる「有志の会」が展開している。創価学会の池田大作名誉会長の理念を強調し「9割の憲法学者が『違憲』と判断する法案が、安倍政権により採決されようとしている。声を上げるべき時は今だ」と主張。同会ホームページ

によると、インタビューで職員や卒業生から集めた署名は24日時点で1468人になる。

創価学会は既に会員による反対運動について「静観する」方針を決めた。無理に押さえつけられれば、余計に反発を招くと判断したとみられる。

8月14、15両日の共同通信世論調査では、公明党支持層の55・4%が安保法案の今国会成立に反対と回答した。約1カ月前より16ポイント増えた。

安保法案を「戦争法案」と訴える共産党の伸長も気がかりだ。2日投開票の仙台市議選では、共産党が全5選挙区

のうち3選挙区でトップ当選を果たした。共産党の山下芳生書記局長は「公明党は『平和の党』の看板を自ら投げ捨てている」と批判を強め、公明党支持層に秋波を送る。

こうした現状に、公明党幹部の表情はさえない。「理解を求め続けるしかないが、安保法案を成立させれば来年の参院選で確実に票は減る」